教養教育センター　マンスリーコラム　vol. 34
2025 / 11 / 15

黒河夜高祭

福原　忠（物性物理（実験））

昨年度の教養ゼミで、県立大学射水キャンパス地元の黒河地域振興会との協働事業として黒河の地名と歴史を調べました。その成果を本学「地域志向教育プログラム」の予算を使って冊子にまとめたところ、地元のみなさんに大変によろこんでいただけました。

さて、その活動を通じ、黒河では江戸期から続く黒河夜高祭（射水市指定文化財）が毎年８月に行われている事を知りました。夜高祭というと絢爛豪華な行燈が見ものの砺波の夜高祭が有名ですが、そちらは大正時代からとのことで、歴史の古さでは黒河の勝ち（？）です。また、黒河夜高祭の特徴は子供たちによる俄（にわか）が行われることです。本来、俄とは即興芝居を意味するのですが、黒河夜高祭の俄の演目は岩見重太郎伝説と決まっています。その筋書は、有名な武芸者の岩見重太郎が諸国武者修行の途中、富山で重い病気にかかり医師の栗崎道庵に治してもらったが、その際、黒河に人身御供という若い娘を神様にお供えする風習があって、その年は道庵の親戚筋の娘が人身御供に選ばれていると聞いて重太郎は「神様がそんなことをするわけがない。きっと化け物の仕業だろう。」といって娘の身代わりに長持に入って待ち受けていたところ、案の定、化け物ヒヒがやってきたので長持から出て退治する、というものです。毎年、地元の小学生のみなさんが黒河夜高保存会の指導で練習を積んで祭の当日に披露します。

皆で俄を楽しんだあとは各町内ごとに台車に乗せた大行燈を小行燈を手に持った子供が囲み、黒河神社と黒河西養寺（1581 年に開かれた名刹）の間を、次の夜高唄を唄いながら巡行します。

チョウサイタ　ニワカ　（面白く、滑稽な俄だ）
ゴモンザイタ　ニワカ　（今、即興に思い出した俄を演じて）
サンモンザケニ　ヨウタヨウタ　（僅かの酒に酔って、俄をたのしんでいるところだ）

かっこの中は黒河西養寺の先代ご住職で郷土史家でもある伊藤曙覧氏による解釈で、「ゴモンザイタ」は「オモイダイタ（思い出した）」が転化したものだろう、とのことです。

小行燈の絵は子供達が自分で描きます。写真で私が持っている行燈の絵は昨年度のゼミ生の高木くんが描いたのですが、彼は自分の地元のお祭で行燈に絵を描いているので素人離れして上手で、この絵を見た夜高保存会の会長さんから「子供の絵描き指導に来てくれ。」と頼まれて今年から指導に行っているそうです。実は昨年度は行燈は作ったのですが、お祭り当日が悪天候で巡行ができませんでした。そこで今年リベンジで私が一人で参加、「ちょーさいたー、にーわーかー♪」と夜高唄を唄いながら巡行してきました。それが右の写真です。